モロッコ政治月報（２０１７年６月）

2017 年 7 月 22 日
在モロッコ大使館

６月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧下さい。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】
◎ （１日～）アル・ホセイマにおける騒擾状態の継続
◎ （１４日～１５日）マクロン仏大統領のモロッコ訪問

＜内政・政局・治安＞

１　内政

（１）参議院における２０１７年度予算案の採択

１日，参議院は賛成多数で２０１７年度予算案を採択した。この予算法案では，経済成長率４．５％及びインフレ率１．７％を想定し立案され，公共事業費に１９００億ＤＨ充てられることが含められている。予算案は衆議院に送付され，同院にて第２回審議が行われる予定。

（２）モハメッド６世国王による政府高官の任命

２５日，モハメッド６世国王は，内務省及び外務・国際協力省の高官を任命した。主要な任命は以下のとおり。

（内務省）

- モハメッド・ファウジ（Mohamed Faouji）：次官（Wali）
- ハリッド・サフィール（Khalid Safir）：地方自治総局長（Wali）
- ジネブ・エル・アダウイ（Zineb El Adaoui）：自治行政総監（Wali）
- サミール・モハメッド・タジ（Samir Mohamed Tazi）：地方自治体整備基金総裁（Wali）
- モハメッド・ムヒディア（Mohamed Mhidia）：ラバト＝サレ＝ケニトラ地域圏知事（Wali），ラバト県知事
- アブデルケビル・ザフード（Abdelkebir Zahoud）：カサブランカ＝セタット地域圏知事（Wali），カサブランカ県知事
- ムアッド・エル・ジャマイ（Mouad El Jamai）：オリエンタル地域圏知事（Wali），ウジュダ＝アンガッド県知事
- アハメド・ハッジ（Ahmed Hajji）：スース＝マッサ地域圏知事（Wali），アガディ

ール＝イダ・ウッタナンヌ県知事
- モハメッド・ベンリバク（Mohamed Benribak）：ドラア＝タフィラレット地域圏知事（Wali），エラシディア県知事
- モハメッド・エンアジェム・アブハイ（Mohamed Ennajem Abhai）：ゲルミム＝ウエッド・ヌーン地域圏知事（Wali），ゲルミム県知事

（外務・国際協力省）
- オマール・ズニベール（Omar Zniber）：ジュネーブ代表部常駐代表（大使）
- ムスタファ・マンスーリ（Mustapha Mansouri）：在サウジアラビア大使
- カリマ・ベンヤイシ（Karima Benyaich）：在スペイン大使
- アジズ・メクアール（Aziz Mekouar）：在中国大使
- モハメッド・ラアルシ（Mohamed Laarouchi）：ＡＵ代表部常駐代表（大使）
- ハミッド・シャバル（Hamid Chabar）：在モーリタニア大使
- ソリア・オトマニ（Soria Othmani）：在カナダ大使
- オサマン・ベンハニーニ（Othamane Benhnini）：在ポルトガル大使
- ファウーズ・アシャビ（Faouz Achabi）：在ウクライナ大使
- ファデル・ベンヤイシ（Fadel Benyaich）：在ルーマニア大使
- ハナン・サアディ（Hanane Saadi）：在チェコ大使
- モハメッド・ファラハット（Mohamed Farahat）：在ガーナ大使
- ブガレブ・アタール（Boughaleb Attar）：在キューバ大使

２　治安

（１）アル・ホセイマにおける騒擾状態

（ア）１日夜，アル・ホセイマで抗議運動主導者ゼフザフィの釈放を求め，２千人弱がデモを実施した。このデモは，治安部隊と衝突することなく，午前０時前に無事に終了した。また，同日の日中，同市中心部のほぼ全ての商店がゼネストを実施した。このストライキはイムズーレンと近郊小都市ブニ・ブヤシュでも行われた。

（イ）１日に開催された首相主宰閣議において，エル・オトマニ首相はリフ地域の情勢に関する意見を表明し，「同地域は政府の最大の懸念事項である」と述べるとともに，政府執行部はこの状況の進展を注意深く見守ると断言した。また，エル・オトマニ首相は，アル・ホセイマ抗議運動の要求について，政府執行部は住民の要求に応えたいと考えているが，これは妥当な方法で行われる必要がある旨表明しつつ，一晩で病院を建設することはできないと述べた。エル・オトマニ首相はまた，リフ地域情勢についてラフティット内務大臣及びアウジャール法務大臣と会談を行ったことを明らかにし，この会談の際，アル・ホセイマで実施されるあらゆるオペレーションは人権を尊重して行われなければならない旨述べた。

（ウ）２日午後，イムズーレンで金曜礼拝後にデモ参加者と治安部隊間で衝突が発生し，

数百人の若者が治安部隊に対し投石する一方，治安部隊は若者らを追い散らし，バリケードを破壊するため，放水や投石により反撃した。この衝突は午後遅くまで続いた。また，同日夜には，アル・ホセイマ市において数百人がデモを実施した。午後１０時頃，デモ参加者らは参集し，「我々は皆ゼフザフィである」と声をあげた。同市内には治安部隊が配備され，デモ参加者が一か所に合流するのを防ごうとした。このデモは午前０時前に，平和裡に終了した。

（エ）３日及び４日，アル・ホセイマ及び周辺都市でナセル・ゼフザフィの釈放を求め，数百人がデモを実施した。通行止めの柵が市内に設置され，治安部隊がデモ参加者から数メートル離れた場所に配備された。これらのデモはそれぞれ午前０時前に治安部隊と衝突することなく終了した。また，４日の日中，イムズーレンにおいては数百人の女性が参集し，デモを実施した。

（オ）５日，アル・ホセイマ抗議運動のメンバー２名が逮捕された。うち１名はこの抗議運動のナンバー２と見られているナジブ・アハムジクであり，同人はゼフザフィを含む抗議運動のメンバーが５月２９日に逮捕された後もＳＮＳ上でデモの継続を呼び掛けていた。もう１名は，シルヤ・ジアニであり，若い女性である同人は，抗議運動の新たな顔となっており，他のメンバーとカサブランカへタクシーで向かう途中，アル・ホセイマ近郊で逮捕された。

（カ）５日，エル・オトマニ首相は，モハメッド６世国王の指示に従い，アル・ホセイマ開発計画の工事の進捗状況をフォローアップするため，アル・ホセイマ地方議員と会合を持った。この会合で，オトマニ首相は，政府は可能な限り（アル・ホセイマ地域）住民の正当な要求に応えなければならない旨述べた。この会合には，ラフティット内務大臣及びエル・オマリ・タンジェ＝テトゥアン＝アル・ホセイマ地域圏議会議長（ＰＡＭ党首）も同席した。同日，ラバトでは，ベンキラン前首相（ＰＪＤ党首）と逮捕されたナセル・ゼフザフィの父親がアル・ホセイマの情勢に関する意見交換を行った。この会談を調整したモハメド・ジアンによれば，両者は１９９６年以来の知り合いであり，この会談は平穏かつ良好な雰囲気の中で実施された。

（キ）５日夜，アル・ホセイマ市において数百名がゼフザフィの釈放を求め，デモを実施した。デモ参加者は治安部隊の監視の下，日没後に参集し，ゼフザフィの肖像画を掲げつつ，「我々は皆ゼフザフィである」，「平和」，「軍国主義化反対」など声をあげた。デモは治安部隊と衝突することなく午前０時前に終了した。

（ク）５日から６日にかけて，５月２９日に逮捕されたナセル・ゼフザフィが，カサブランカのウカシャ刑務所に一時的に移送された。同人の弁護人アブデスサデク・エル・ブシュタウィは，カサブランカ高等裁判所の判事がゼフザフィと抗議運動メンバー６名を同刑務所で勾留することを決定したとしている。

（ケ）６日，衆議院において，ラフティット内務大臣は，アル・ホセイマにおける抗議活動について要旨以下を説明した。

① 国家は地域開発のために努力したが，民衆の抗議に対して，法を尊重させる以外に選択肢はなかった。国家は（アル・ホセイマの）民衆の社会的・経済的要求に応えるために力を合わせ，多くの事業を発表した。アル・ホセイマ地域は他の地域と同様にこのダイナミズムから恩恵を受けた。政府はこれらの事業を加速させ，当該地域を開発の中心とする意思を再表明する。不十分な点があるかもしれないが，政府プログラムは民衆の要求に９０%応えている。
② 抗議運動の発端となった昨年１０月以来，いかなる逮捕も行われておらず，５月２６日にモスクでゼフザフィがイマームの礼拝を妨害した後に初めて逮捕者が出た。これらの逮捕は，透明性と推定無罪の尊重の下で行われた。プレスもデモを取材するに当たり，如何なる妨害も受けていない。
③ 昨年１０月以来，当該地域では８００回以上のデモが実施され，デモ参加者との衝突により２０５名の警官が負傷した。民衆の様々な要求に積極的に応えるため，国家は努力しているが，日常的にデモを続けようとする執拗さが問題を引き起こしている。政府によって開かれた対話の扉は閉じられて良いのか。国家の努力は過小評価されて良いのか。複数の関係者は誤った情報を捏造し，ＳＮＳ上で流布することにより，世論を誤らせることをねらっている。これは組織的な陰謀の性質を示している。

（コ）６日，カサブランカとラバトの左派系活動家が，１１日，ラバトでアル・ホセイマ抗議運動を支持するデモを行うよう呼び掛けた。民主左派連合（ＦＧＤ）や民主主義の魂運動（le mouvement Anfass democratique）がこのデモへの参加を表明した。アル・ホセイマ情勢にこれまで沈黙を守ってきたＡＷＩ（Al Adl Wal Ifssane。公正と慈善）も参加を表明している。ＡＷＩは６日に発表したコミュニケの中で，「このデモは，複数の政党が参加した２月２０日運動（当館注：２０１１年の「アラブの春」に影響を受けた全国運動）にやや似ている」と述べている。なお，ＦＧＤの中核をなすナビラ・ムニブＰＳＵ党首は１１日のデモについてＡＷＩと調整を行っていないと述べた上で，このデモ行進は，イデオロギーを問わず，モロッコ人全員に開かれている旨述べた。

（サ）６日夜，アル・ホセイマで数百人がデモを実施した。デモ参加者は同市の様々な地区に参集したが，デモ参加者の結集を防ぐために治安部隊が展開していたため，デモ参加者と治安部隊が対峙し，緊迫した場面が散見された。他方，同市シディ・アベド地区では警官隊が数十人のデモ参加者を散会させるために介入し，５名を逮捕した。

（シ）7日夜，アル・ホセイマ市で多数の治安部隊が展開し，数百人がデモを実施した。日没後に幾つかのデモ・グループがシディ・アベド地区に参集した。治安部隊はデモ参加者の結集を防ぐため，同地区の各出入地点に配備されたものの，最終的に数百名のデモ参加者が結集した。デモ参加者は「以前と比較し，マフゼン（当館注：王宮やその意向を受けた内務省を含む当国の伝統的中央集権的権力構造を指す）の部隊数が増えており，デモを妨害するために，アル・ホセイマ市の様々な地区を封鎖している」と述べつつ，「今後の主な要求は，政治的に勾留された者の釈放である」と述べた。デモ参加者

は一連の活動の平和的な性質を主張し続け，このデモも午前０時前に平和裡に終了した。
（ス）８日午後，アル・ホセイマ市のシディ・アベド地区でデモ参加者と治安部隊間で衝突が発生した。午後５時頃，デモ参加者の若者の集団が路地に参集したが，治安部隊に押し返されたため，数名が治安部隊に投石した。これに対し，治安部隊は催涙ガスで反撃した。この衝突により，少なくとも２名が負傷，このうち警官１名が顎を負傷し，デモ参加者１名は警棒で殴られ，頭部を負傷した模様。なお，この衝突は午後６時３０分頃に終了した。
（セ）８日夜，アル・ホセイマ市で数百名がアル・ホセイマ抗議運動の指導者らの釈放を求め，デモを実施した。多くの女性と子供を含むデモ参加者は，同日午後に衝突が発生したシディ・アベド地区に再度参集した。治安部隊はデモ参加者から３００メートル離れた場所に配備された。デモは午前０時前に平和裡に終了した。
（ソ）９日夜，午前０時頃まで，アル・ホセイマ市のシディ・アベド地区で千人から２千人規模のデモが発生した。イムズーレンでは午前０時頃からデモ参加者と治安部隊との間で衝突が発生，覆面をつけた数十名の若者が治安部隊に投石したのに対し，治安部隊は催涙ガスで応戦した。この衝突は午前２時頃終了した。
（タ）９日，モロッコ治安当局は一連の抗議活動に関し，６名の者（うち３名がアル・ホセイマ出身，残り３名はアル・ホセイマ近郊出身）の身柄を拘束し，１０日，うち４名を逮捕した。また，１０日午後には抗議運動の中心人物の一人であるエル・モルタダ・イアムラシェンがアル・ホセイマの自宅付近で身柄を拘束された。元サラフィストである同人は，平和的で，妥協を容認する発言をもって，各メディアで定期的に登場していた。
（チ）１０日夜，アル・ホセイマ市のシディ・アベド地区で日没後にデモが実施された。このデモは９日のデモよりも参加者が少なく，同地区は治安部隊により封鎖されたものの，平和裡に終了した。他方，イムズーレンでは，少なくとも５００人がデモに参加した。デモ参加者と治安部隊が対峙し，緊迫した雰囲気があったものの，衝突なく終了した。
（ツ）１１日，ラバトで，アル・ホセイマ抗議運動を支持し，逮捕された抗議運動の指導者の釈放を求め，左派系の組織や活動家により実施を呼び掛けられていたデモが行われた。このデモは正午から開始され，２時間以上続いたものの，治安部隊の姿はほとんどなく，平和裡に終了した。内務省関係者によれば，１万２０００～１万５０００人が参加した。また，同日夜アル・ホセイマでは，数百人がシディ・アベド地区でデモを実施した。
（テ）１２日，ラフティット内務大臣，ラバハ・エネルギー大臣，アファイラル水利担当閣外大臣，アマラ設備・運輸・ロジスティクス大臣，ルアルディ保健大臣，アリ・ファシ＝フィフリ電力・水道公社（ONEE）総裁，モハメッド・エル・ヤクビ・タンジェ＝テトゥアン＝アル・ホセイマ地域圏知事（wali），エル・オマリ同域圏議会議長（ＰＡ

Ｍ党首）らがアル・ホセイマ市及び近郊で進行中の事業のフォローアップのためにアル・ホセイマに赴き，地元責任者とダム建設計画及び淡水化工場に関する実務会合を実施した。

（ト）１１日から１３日の夜間，アル・ホセイマ市で数百名がデモを実施した。デモに参加した活動家やＳＮＳ上に投稿された画像によれば，１３日，アル・ホセイマ及びイムズーレンにおいて，治安部隊が民衆を散会させるとともに，数名の身柄を拘束した。地元治安当局関係者は，デモの勢いは下降傾向にあると述べつつ，４名の逮捕を認めた。

（ナ）１４日，アル・ホセイマ地方裁判所で，５月２６日に治安部隊との衝突により逮捕された３２名のデモ参加者の若者（１８～２５歳）のうち２５名に対し１８か月間の禁固刑，７名に対し罰金を伴う２～６か月間の執行猶予付禁固刑の判決が下された。容疑者らの弁護人モハメド・ジアンによれば，容疑者らの罪状は治安当局に対する暴力，反抗罪，無許可のデモの実施及び武装である。なお，モロッコ治安当局は５月２６日以降，抗議活動の指導者を含む約１００名を逮捕し，８６名（このうち約３０名が拘留中）が起訴されている。容疑者らの罪状は，特に国内の治安に対する侵害である。

（ニ）１４日夜，モロッコを友好実務訪問中のマクロン仏大統領は，モハメッド６世国王との会談後の記者会見で，アル・ホセイマ情勢について要旨以下のとおり述べた。

①　内政にかかる問題について判断を下す立場にないが，国王とは非常に率直にこの問題について議論した。国王は，憲法で保障されているデモの実施は正当かつ普通のことであると考えているように感じた。また，国王は，この運動の原因に対応し，この地域に配慮することにより，状況を落ち着かせたいと望んでいると感じた。

②　国王との議論から，如何なる抑圧の意思の恐れも感じず，むしろ，この抗議の根深い理由に応えていく意思を感じた。国王はこの地域で度々時間を過ごすことがあり，国王にとって大切なこの地域の行方を心配していると感じた。

（ヌ）１５日夜，アル･ホセイマ市でデモ参加者と警察の間で衝突が発生した。治安部隊の介入に抗議するため，約百人がデモを行い，治安当局に対して投石した。これに対し，治安当局は催涙ガスを使用して反撃し，女性を含むデモ参加者が軽傷を負った。衝突は夜半過ぎまで続いた。

（ネ）１６日，逮捕者の弁護士は，ゼフザフィら５人の逮捕者が拘留条件に抗議し，３日間のハンストを行うと述べた。弁護士はまた，「質の悪い食料，独房での拘留，１０分間と短い接見時間等，囚人の基本的人権が尊重されていない」と述べた。

（ノ）１７日及び１８日，ヤクビ・タンジェ＝テトゥアン＝アル・ホセイマ地域圏知事（wali）は，進歩社会主義党（ＰＰＳ），公正と発展党（ＰＪＤ），イスティクラル党（ＰＩ），人民勢力社会主義同盟（ＵＳＦＰ）等の政党及び労働組合の代表と協議を行った。政党の代表者らはヤクビ地域圏知事に対して警戒措置を緩和するよう求めたものの，ヤクビ地域圏知事は，アル・ホセイマとイムズーレンで住民がデモを行わないとの政党からの保証がない限り，警戒措置を緩和しない旨述べたとされている。

（ハ）１７日夜，イムズーレンの中心街近くの建設工事が滞っている病院前で，千人以上が集まるデモが行われた。中心街に至る全ての道路は数十人の治安当局関係者によって封鎖され，デモ関係者は近寄らなかった。また，１８日夜，アル・ホセイマでも２００名程度の若者が「大学，病院，仕事」を求める抗議運動を行った。

（ヒ）１９日夜，アル・ホセイマで数百名が逮捕者の釈放を求めるデモを行った。ラバトでも，アル・ホセイマ抵抗運動に連帯を示すため，数十名が集結しようとしたところ，治安当局が暴力的にこれを妨害した。また，同日夜，イズムーレンでも数百名が新たなデモを行った。

（フ）２２日，アムネスティ・インターナショナル及びヒューマン・ライツ・ウォッチは，５月２９日にゼフザフィが逮捕された際に警官に殴打され，侮辱を受けた旨の声明を発出，モロッコ政府が警察当局によるゼフザフィに対する暴力行為の申し立てについて詳細な捜査を実施すべきであると非難した。

（ヘ）２３日，ハルフィ首相付国会関係・市民社会担当特命大臣兼報道官は，国会後の記者会見で，アル・ホセイマの事件に係る起訴は，司法の枠組みの下で行われていることから政府としてコメントする立場にない旨述べた。その上で，誤った情報が流布していることに懸念を表明した。

（ホ）２５日夜に開催された国王主催閣議で，モハメッド６世国王は，アル・ホセイマ開発計画の遅れに懸念と不満を表明した。国王は内務大臣及び財務大臣に対し，計画の未執行にかかる必要な調査を行うよう命じ，速やかに遅延の責任を特定して報告書を提出するよう指示した。国王はまた関係大臣に対し，本件のフォローアップを行うため，夏期休暇を取得することを許可しない旨述べた。同国王は更に，社会開発プロジェクトを政治化しない必要性を強調した。

（マ）２６日夜，アル・ホセイマ市で群衆が警官に対して挑発及び投石行為を行った。これによって，３９人の警官が病院に搬送された。これらの者は，県の緊急病院の建物にも被害を与えた。また，同日，アイト・ユセフ・オウアリ村において群衆が地方当局の自動車を破壊，これに対して国家憲兵隊が催涙弾を使用し，３人を逮捕した。

（ミ）２７日，イムズーレンでデモ隊と治安当局が衝突した。この衝突で，当局は２９人の警官が負傷したと発表した。２６日及び２７日の衝突の抵抗運動側の負傷者数は明らかになっていないものの，人権団体は，これらの衝突の際に１００名以上が新たに逮捕されたとしている。

（ム）２９日，エル・オトマニ首相は，２６日及び２７日の衝突について，治安当局によって行われたとされる権力乱用について調査する必要がある旨述べつつ，地域住民の協力を求めるとともに，遺憾と悲しみの意を表明した。

（２）ＩＳＩＬ支持者４名からなるテロ細胞の解体（エッサウィラ）

（ア）２２日，中央司法捜査局（ＢＣＩＪ）はエッサウィラ市内においてＩＳＩＬに所属する過激主義活動家４名からなるテロ細胞を解体した。このオペレーションで，武器や電子機器に加え，これらの者がＩＳＩＬの首長に忠誠を誓った文書及び，モロッコにおける聖戦を「イスラム国のマグレブ・アル＝アクサ州（La wilaya de l'Etat islamique au Magreb al-Aqsa）」の名称の下で行うことを表明した手書きの文書が押収された。

（イ）また，本捜査では，ＩＳＩＬ指導者アブ・バクル・アル＝バグダーディーに忠誠を誓い，エッサウィラにおいて重要施設や観光地に対して大規模なテロ攻撃を行うことを企図していたことが明らかになった。更に，このテロ細胞の構成員はテロ組織の参加を呼びかけ，このテロ活動をモロッコの他の都市に広げることを計画していた。

＜外交・国際関係＞

1　アフリカ関係

（１）モハメッド６世国王のＥＣＯＷＡＳ首脳会合出席取り止め

２日，モロッコ外務・国際協力省は，６月３日及び４日にリベリアで開催されるＥＣＯＷＡＳ首脳会合にモハメッド６世国王が出席予定であったものの，イスラエル首相への招待状発出問題により生じた現状に鑑み，同国王も出席を取り止める旨発表した。

（２）モロッコのＥＣＯＷＡＳ加盟申請に対する原則合意

（ア）ブリタ外務・国際協力大臣は，４日にリベリア・モンダヴィアで開催された第５１回ＥＣＯＥＡＳ首脳会合に出席，この会合でモロッコの加盟申請に対して原則合意が与えられた。

（イ）この機会に，ブリタ外相は，ＥＣＯＷＡＳ首脳会合はモロッコの加盟申請に対する原則合意を表明したが，この決定は，当該地域におけるモハメッド６世国王の個人的な取組の承認である旨強調した。

（ウ）ブリタ外相はこの決定を大変重要である旨評価しつつ，ＥＣＯＷＡＳ加盟国は３つの重要なメッセージを発出した旨述べた。３つのメッセージとは，第１にモロッコのＥＣＯＷＡＳ加盟に対する原則合意，第２にモロッコとＥＣＯＷＡＳ加盟国を結びつける多面的な強固な関係の承認，第３に次期ＥＣＯＷＡＳ首脳会合へのモハメッド６世国王の招待である。

（エ）同外相は，この決定により，ＥＣＯＷＡＳ加盟国首脳はモロッコ加盟に対して好意的であるとの政治的意思表明を行ったが，次のステップは法的な決定であり，（ＥＣＯＷＡＳの）委員会がこの決定に効力をもたらすよう，法的手続を審査する必要がある旨述べつつ，モロッコはＥＣＯＷＡＳ設置文書に従い法的作業を行う予定である旨述べた。

（オ）ブリタ外相は更に，法的審査に続いて技術面の審査が行われ，ＥＣＯＷＡＳの様々な分野・セクターについて協議が行われる旨説明した。

（カ）ブリタ外相は，２００１年以来，国王がＥＣＯＷＡＳ加盟国を２５回以上訪問し，ＥＣＯＷＡＳ加盟国と６００以上の協定を締結した旨述べつつ，モロッコは現在，この地域における最大の投資国である旨強調，モロッコの海外投資の約３分の２が当該地域で実施されている旨述べた。

（３）ブリタ外務・国際協力大臣とガメゼ・スワジランド外相との会談

１５日，ブリタ外務・国際協力大臣はラバトで，ガメゼ・スワジランド外相とバイ会談を行った。この会談の中で，両外相は，現在スワジランドが議長国を務めている南部アフリカ開発共同体（ＳＡＤＣ）とモロッコの協力関係強化について議論を行い，ブリタ外相は特に西サハラ問題にかかるモロッコの立場を明確にするため，ＳＡＤＣとの対話を強化したい旨述べた。これに対し，ガメゼ外相は，両国の歴史的友好関係を引用しつつ，西サハラ問題におけるモロッコの立場への完全な支持を強調した。

（４）第１９回モロッコ・チュニジア高級合同委員会の開催

（ア）１９日，エル・オトマニ首相とシェーヘド・チュニジア首相はラバトで第１９回モロッコ・チュニジア高級合同委員会を主催し，両国は様々な分野における１０の協定に署名した。モロッコ側からは，エル・オトマニ首相のほか，ヤティム雇用・職業統合大臣，エル・ハッカウィ家族・連帯・平等・社会開発大臣，ブリフ運輸担当閣外大臣，ブセッタ外務・国際協力大臣付閣外大臣，デルハム貿易担当閣外大臣，ベンシール職業訓練・雇用促進事業団（ＯＦＰＰＴ）総裁ほかが出席，チュニジア側からは，シェーヘド首相のほか，雇用大臣，運輸大臣，外務閣外大臣，チュニジア経団連副会長等が出席した。

（イ）会合後に発出された共同声明によれば，合同委員会は両国の利益を確保するためにグローバルに協力し，様々な分野における二国間協力を発展させる方法を見いだした。同声明はまた，今次会合で，雇用，職業訓練，輸出促進，投資，社会，宗教，文化などの分野にかかる１０の協定への署名が行われ，目的を達成するためのメカニズムの設置も合意されたとしている。

（ウ）今次会合で，両国は様々な分野における既存の協力関係を評価した上で，両国首脳と国民が期待するより高い水準の戦略的パートナーシップを構築する方法について議論が行われた。

（エ）両国は，マグレブ・アラブ連合（ＡＭＵ／ＵＭＡ）の諸機関を活性化し，その機構を支援し，マグレブの共通行動を再度立ち上げるために，ＡＭＵが陥っている様々な閉塞状態を打開する必要性について合意した。共同声明は，開発，安定及び尊厳のある生活にかかるマグレブ住民の期待に応えるために，マラケシュ条約の崇高な目的に従って，ＡＭＵ加盟国５か国の強い政治的意思と真剣な作業が必要であるとしている。

（オ）両首相はまた，マグレブ地域の安全と安定を脅かすテロの脅威に対処するための努力の強化を指摘しつつ，様々な形式のテロを断固として非難する旨強調した。両者は，テロに直面している諸国との連帯を表明し，共通の利益を実現するための効果的なアプローチに従って，マグレブ５か国の間で協力を強化し，対話を確立し，治安にかかる調整を強化する必要性を強調した。

（カ）また，モロッコはチュニジアに対し，モロッコのＡＵ復帰に対する支持への謝意を表明し，ＡＵにおける協力と調整の重要性を強調した。

（キ）両国はまた最近のアラブ・イスラム・国際情勢についても協議し，アラブ和平イニシアティブ及び国際的な関連決議に従い，パレスチナの正当な政治的権利の回復とエルサレムを首都とする独立したパレスチナ国家の建設への完全な支持を表明した。この点，両国は，パレスチナ住民に対するイスラエル占領当局（ママ）による権利侵害を強く非難するとともに，アル＝アクサー・モスクを狙った攻撃の危険なエスカレーションを強く非難し，安保理を始めとする国際社会及び和平プロセス関係者に対し，この攻撃的な政策を中止し，国際的な正当性にイスラエルを従わせるよう介入することを呼びか

けた。
（ク）リビア情勢について，両国は，２０１５年１２月１７日にスキラットで署名されたリビア政治合意への支持を表明した。この合意は国連の枠組みの下で行われ，リビア内の全ての対話の基礎となる枠組み文書である。両国は，リビアの兄弟達を支援し，グローバルな政治解決プロセスにおいてリビア国民を支持するための全ての努力とデマルシュを歓迎した。両国はまた，軍事オプションの拒絶を再表明し，コンセンサスのある政治的解決が，リビアの領土一体性を保護するために，現状から脱却する唯一の方法であることを強調した。

（５）<u>モロッコ＝アルジェリア国境付近のシリア難民に対する支援</u>

２０日，モハメッド６世国王は，人道的配慮に鑑み，例外的に，数週間前からモロッコ＝アルジェリア国境付近に留め置かれているシリア国籍の１３家族の状況に早急に対応するよう，関係当局に求める国王指示を発出した。

（６）<u>南ア裁判所によるリン鉱石輸送船差押さえに対するＯＣＰの異議発出</u>

ポリサリオ戦線の申立てにより南ア・エリザベス港で差し押さえられている西サハラ産リン鉱石輸送船に関し，１５日，南アフリカの裁判所がポリサリオ戦線の申立てを受理し，その訴えを審理すると判決した結果，王立リン鉱石公社（ＯＣＰ）は，この判決に異議を唱えるコミュニケを発出した。

２　アラブ関係

（１）<u>カタール情勢を巡るモハメッド６世国王とアブドッラー・ヨルダン国王との電話会談</u>

７日，モハメッド６世国王とアブドッラー２世ヨルダン国王は，カタールと複数のアラブ諸国との外交危機を議論するために電話会談を行った。ヨルダン政府系ペトラ通信によれば，両国王は，電話会談で，現下の地域情勢と二国間関係につき協議したとされる。この電話会談について，モロッコ政府は如何なる公式発表も行っていない。

（２）<u>カタール情勢におけるモロッコの懸念の表明と仲介の可能性の示唆</u>

（ア）１１日，モロッコ外務・国際協力省は，カタールを巡る昨今の情勢に懸念を表明するとともに，関係国の希望に応じて仲介を行う用意がある旨発表した。同省は，この危機の勃発以来，モハメッド６世国王は様々な関係者と緊密かつ絶え間ないコンタクトを維持していると述べつつ，モハメッド６世国王と湾岸諸国の国王及び首長との間の誠実かつ友好的で強固な個人的関係と相互の尊敬を理由に，また，湾岸諸国との特別な戦略的パートナーシップに鑑み，モロッコは，不和を発展させ，意見の相違を深めるしかない拙速な公式発表や立場の表明に与しないよう注意してきたと発表した。
（イ）同省はまた，関係国が望む場合には，モロッコが，内政不干渉，宗教的過激主義との戦い，立場の明確化及びコミットメントの遵守を基礎に，率直かつ包括的な対話を慫慂するために仲介を行う用意がある旨述べた。

（３）カタールに向けたモロッコによる食料援助の決定

１２日，モロッコ外務・国際協力省は，モハメッド６世国王の指示に基づき，カタールに対する食料品の送付を決定した旨発表した。同省は，この決定は，とりわけこの祝福すべきラマダン月においてイスラム市民の間の連帯と相互扶助を行うよう要請する聖なるイスラム教の教えに従うとともに，「コーランはラマダン月に，人々を導き，正しい方向や分別の明らかな証しとして降臨した」とするコーランの一節に従い行われるものであるとしている。

（４）湾岸諸国への連帯表明と非アラブ勢力の非難

１２日，モロッコ外務・国際協力省は，今次危機を利用しようとする非アラブ勢力を非難しつつ，湾岸諸国との特別な友好関係や連帯の意を強調したコミュニケを発出した。

（５）ブリタ外務・国際協力大臣の湾岸諸国訪問

（ア）１２日，ブリタ外務・国際協力大臣は，モハメッド６世国王特使としてアブダビを訪問し，ムハンマド・ビン・ザーイド・アブダビ皇太子兼連邦軍副最高司令官に表敬，モハメッド６世国王からの口頭のメッセージを伝達した。

（イ）１３日，ブリタ外務・国際協力大臣はモハメッド６世国王特使としてクウェートを訪問し，サバーハ・クウェート首長を表敬，本件危機の緊張緩和のためのクウェートの取組へのモロッコの全面的支持を伝達した。

（ウ）１３日，ブリタ外務・国際協力大臣は，モハメッド６世国王特使としてジッダを訪問し，サルマン・サウジアラビア国王を表敬，モハメッド６世国王の口頭メッセージを伝達した。

（６）モハメッド６世国王とムハンマド・ビン・サルマン・サウジアラビア新皇太子の電話会談

（ア）２１日，モハメッド６世国王はムハンマド・ビン・サルマン・サウジアラビア王子と電話会談を行った。これは，サルマン国王によるムハンマド・ビン・サルマン王子の皇太子・副首相・国防大臣任命の機会に行われた。

（イ）電話会談で，モハメッド６世国王は同皇太子に対し，同皇太子に寄せられた信頼の念に祝意を表するとともに，サルマン国王の賢明なリーダーシップの下，皇太子が成功裏に重責を果たすことを祈った。

（ウ）また，この機会に，両王国を結びつける実りある協力関係，活発な連帯関係及び様々な分野における協力強化の意思を基礎とした親愛なる結びつきと素晴らしい関係が強調された。

３　欧州関係

● マクロン仏大統領のモロッコ訪問

（１）１４日夕刻，モハメッド６世国王の招待による友好・実務訪問のため，マクロン仏大統領がブリジット夫人とともにラバトに到着した。同大統領のラバト到着時，モハメッド６世国王自らが，ムーレイ・ハッサン皇太子，ムーレイ・ラシッド王子，ララ・サルマ王女，ララ・ウム・ケルトゥーム王妃とともに出迎えた。国王による出迎えに続いて，マクロン大統領は，エル・オトマニ首相，国王顧問団，ラフティット内務大臣，ブリタ外務・国際協力大臣，ルアラク王立軍総監（少将），ハムーシ国土監視総局（ＤＧＳＴ）総局長兼国家安全総局（ＤＧＳＮ）総局長，マンスーリ調査分析総局（ＤＧＥＤ）総局長，ラバト＝サレ＝ケニトラ地域圏知事代行等から挨拶を受けた。

（２）同日，モハメッド６世国王はラバト王宮にて１時間以上に亘って，マクロン仏大統領とバイ会談を行った。会談後の記者会見で，マクロン仏大統領は要旨以下を述べた。

① 湾岸情勢

モハメッド６世国王とは地域の安定化のための緊張緩和の必要性を共有するとともに，全てのテロ・グループとの関係性と資金を解明する必要性を共有した。サウジアラビアとカタール間の緊張や，この紛争に参加を表明した諸国間の緊張に如何なる関心も有していない。我々の希望は湾岸地域が平静かつ安定を保つことである。これらの諸国は全て，シリアやリビアなど我々が現在抱える危機の関係国である。モハメッド６世国王は既に複数の関係者と協議を行ったが，自分も同様であり，今後もこの努力を続ける。

② リビア情勢

モハメッド６世国王とは，リビアの安定化のための方法について意見交換した。リビアの安定化は，地域の安全の観点から懸念事項である。

③ サヘル情勢

モロッコは，サヘル安定のための仏の努力に関与する意思を持ったパートナー国であり，アフリカにおける潜在的な不安定要因を非常に警戒している。

④ アフリカ関連

モロッコはアフリカで非常に活発な外交を展開しており，その関与の度合いは増加している。現在，仏とモロッコはアフリカにおいて共通の政策を有している。モロッコのＡＵ加盟を歓迎するとともに，モロッコのＥＣＯＷＡＳ加盟も（共通のアフリカ政策に）貢献するであろう。我々の共通の意思は，起業家活動を発展させ，持続可能な開発を推進する経済成長，教育，エネルギー政策を発展させることである。

（３）バイ会談中，ララ・サルマ王女とブリジット夫人は，モハメッド６世美術館のピカソ展を視察した。また，モハメッド６世国王は会談終了後，ラバト市内ダル・エスサラーム地区の私邸にマクロン大統領夫妻を招き，イフタールを提供した。１５日，マクロン大統領夫妻はラバト空港を出発した。大統領夫妻見送りには，エル・オトマニ首相，ラバト＝サレ＝ケニトラ地域圏知事代行，同地域圏議会議長等が参加した。

＜モロッコ要人の外国訪問＞

日付	国・地域	氏名・肩書き	目的
6月5-9日	米国	アハヌッシュ農業・海洋漁業・地方開発・水・森林大臣，メズアールＣＯＰ２２議長　ブーアイダ海洋漁業担当閣外大臣	ＳＤＧｓ実施支援のための国連ハイレベル会合出席，国連海洋関連会合出席
6月10-12日	中国	アブデラジズ・エル・オマリ衆議院第１副議長，ハイアット・ブフラシェン同院第８副議長他	ＢＲＩＣＳ・開発途上国の政党・シンクタンク・市民社会フォーラム出席，中国全人代議員・共産党関係者との会談
6月12日	ア首連	ブリタ外務・国際協力大臣	ムハンマド・ビン・ザーイド・アブダビ皇太子表敬，モハメッド６世国王の口頭メッセージの伝達
6月12-13日	独	ブーサイド経済・財政大臣	Ｇ２０・アフリカ関連パネル会合出席
6月13日	クウェート	ブリタ外務・国際協力大臣	サバーハ首長表敬，モハメッド６世国王の口頭メッセージの伝達
6月13日	サウジアラビア	ブリタ外務・国際協力大臣	サルマン国王表敬，モハメッド６世国王の口頭メッセージの伝達
6月15日	スウェーデン	バクリＭＡＳＥＮ長官	ステンストローム欧州関係・貿易大臣付閣外大臣との会談
6月15日	米国	エル・フェルダウス投資担当閣外大臣	第11回米国・アフリカ・ビジネス・サミット出席
6月15-16日	ガボン	エル・ワフィ持続可能な開発担当閣外大臣	第16回アフリカ環境閣僚級会合出席
6月23-24日	セルビア	エル・マルキ衆議院議長	ブチッチ新大統領就任式典出席
6月30日	仏	ラバハ・エネルギー・鉱山・持続可能な開発大臣	ＩＥＡ関連会合出席

＜外国要人のモロッコ訪問＞

日付	国・地域・機関	名・肩書き等	目的
6月5日	中国	白克力（Nur Bekri）国家能源局長	ラバハ・エネルギー大臣との会談，第１回モロッコ・中国エネルギー合同委員会出席
6月5日	スペイン	ラファエル・カタラ・ポロ法務大臣	アウジャール法務大臣との会談，司法分野の行政・技術協力覚書署名
6月5日	チェコ	ベラン国防副大臣	ルディ首相付国防管理担当特命大臣との会談
6月7日	パレスチナ	マーリキー外務庁長官	ブリタ外務・国際協力大臣との会談
6月14-15日	仏	マクロン大統領	友好訪問，モハメッド6世国王との会談
6月15日	スワジランド	ガメゼ外務大臣	ブリタ外務・国際協力大臣との会談
6月16日	ニジェール	ヤクブ外務大臣	エル・オトマニ首相表敬，ブリタ外相との会談
6月18-19日	チュニジア	シェーヘド首相，ハマーミ一職業訓練・雇用大臣，ガディーラ運輸大臣，バッシュトブジ外務大臣付国務長官，ヘフィヤーン産業・通商大臣付国務大臣	エル・オトマニ首相との会談，第19回モロッコ・チュニジア高級合同委員会出席，１０の協力協定署名
6月18日	チュニジア	バッシュトブジ外務大臣付国務長官	ブセッタ外務・国際協力大臣付閣外大臣との会談
6月19日	アンゴラ	シコティ外務大臣	ブリタ外務・国際協力大臣との会談，外交・公用査証免除協定署名，政策協議に関する協定署名，エル・マルキ衆議院議長との会談

（了）